

	所見などから死因は原病の悪化であり、白血病の発症などの有害事象は認められなかった。 以上より、本研究は安全かつ着実に遂行されていると考えられる。本研究は MDR1 遺伝子治療を受けた患者の末梢白血球における P-糖蛋白の発現を flow cytometry により直接検出した世界で最初の研究であり、遺伝子導入細胞の消長について、詳細な解析が続けられている。 <研究結果の公表状況> Shunji Takahashi, Keisuke Aiba, Yoshinori Ito, Kiyohiko Hatake, Minoru Nakane, Takayuki Kobayashi, Sayuri Minowa, Harumi Shibata, Junko Mitsuhashi, Satomi Tsukahara, Etsuko Ishikawa, Rieko Suzuki, Takashi Tsuruo and Yoshikazu Sugimoto. A pilot study of MDR1 gene transfer into hematopoietic stem cells and chemoprotection in metastatic breast cancer patients. Cancer Science 2007; 98: 1609-1616 Junko Mitsuhashi, Satomi Tsukahara, Rieko Suzuki, Yumiko Oh-Hara, Saori Nishi, Hiroyo Hosoyama, Kazuhiro Katayama, Kohji Noguchi, Sayuri Minowa, Harumi Shibata, Yoshinori Ito, Kiyohiko Hatake, Keisuke Aiba, Shunji Takahashi, Yoshikazu Sugimoto. Retroviral Integration Site Analysis and the Fate of Transduced Clones in an MDR1 Gene Therapy Protocol Targeting Metastatic Breast Cancer. Human Gene Therapy. 2007, 18(10): 895-906.
--	---

(注意)

1. 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とすること。
2. この報告書は、正本1通及び副本2通を提出すること。
3. 字は墨・インク等を用い、楷書ではっきり書くこと。
4. 記載欄に記載事項のすべてを記載できない時は、その欄に「別紙（ ）のとおり」と記載し、別紙を添付すること。
5. 大学等にあつては、この報告書を、厚生労働大臣のほか文部科学大臣にも提出すること。